

講義名	中国語 B			授業形態	
担当教員	程 遠巍	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

中国語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。中国語の発音の基礎となるピンインの発音練習から始める。ピンインとは中国語の読みを表すもので日本語の振り仮名に相当するものである。中国語を学習する上で非常に重要であり、ピンインをマスターすることで、中国語を読んだり、正確で美しい発音ができるようになる。この授業では、ピンインをしっかりと学んだうえで、段階的に文法事項の学習を進める。基礎的な文法事項や会話表現を学び、簡単な文や挨拶ができるようになることを目指す。また、中国語の字音を通じて、中国語の社会や文化への理解を深め、楽しみながら異文化適応力や教養を身につけたい。

到達目標

(1) 中国語の発音の基礎となるピンインを学び、読みや発音ができる。(2) 学習した基礎的な文法事項を用いて簡単な短文を作ったり、簡単な挨拶ができる。(3) 中国語圏の文化に親しみ、異文化適応力や教養を身につけることができる。
中国語検定試験の準 4 級 - 4 級レベルを目指す。

提出課題

授業でやり残した練習問題

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は採点した上、解説し、返却する。

評価の基準

平常点（出席状況と授業中の取り組み）：30点
中間試験：30点
期末試験：40点

履修にあたっての注意・助言他

必ず教科書を購入してください。また毎回の授業時に教科書を持参した上、受講してください。授業中の取り組みとして評価の対象とする。授業計画は、学生の履修状況によって変更する場合がある。

教科書	.初級中国語 会話編 改訂版.	奥村佳代子 他	金星堂	2400+税	9784764707290
-----	-----------------	---------	-----	--------	---------------

参考図書

.授業中で指示する。。

その他

授業計画

- オリエンテーションと第 1 課～第 2 課、発音練習：声調、単母音、複母音と子音
予習：教科書に目を通す。発音の音声を聴く(2時間) / 復習：発音のふり返り(2時間)
- 第 3 課～第 4 課、発音練習：子音の復習、鼻母音、声調変化、数の言い方
予習：教科書に目を通す。発音の音声を聴く(2時間) / 復習：発音のふり返り(2時間)
- 第 5 課、動詞述語文、疑問文 1
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 6 課、3 種類の疑問文と副詞
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 7 課、形容詞述語文と疑問文 5
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 8 課、名詞述語文と比較文
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 9 課、連動文と介詞
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 復習と中間試験
予習：試験準備(4 時間)
- 第 10 課、所在と存在を表す表現
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 11 課、結果補語と進行を表す表現
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 12 課、方位詞と助動詞
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 13 課、“把”構文と使役文
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- 第 14 課、受身文と状態補語
予習：教科書の単語・本文とポイントに目を通す。音声を聴く。(2時間) / 復習：本文の音読、残りの練習問題(2時間)
- これまでの内容の総復習
予習：試験準備(4 時間)
- 復習と期末試験
予習：試験準備(4 時間)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し、「コミュニケーション能力」の育成を目指す。

双方向授業の実施及び ICT の活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験なし。

備考